



## 10. 選手への対応について

選手は受付に健康調査票を提出する。選手の試合参加の判断は、以下の入場プロトコールにより判断する。

<選手の試合参加の入場プロトコール>

	内 容	試合参加
1	健康調査票を提出しない	× (不可)
2	試合当日に発熱 (37.0度以上) や諸症状がある。	× (不可)
3	試合前2週間のうち、最初の1週間で連続する3日以上の発熱 (37.0度以上) や諸症状があった。	× (不可)
4	試合・計量3日前から発熱 (37.0度以上) や諸症状がある (あった)	× (不可)
5	試合前2週間のうち、最初の1週間で連続した2日以内の発熱 (37.0度以上) や諸症状があった。	○ (可)
6	試合前2週間のうち、後半の1週間で4日前までの1日だけに発熱 (37.0度以上) や諸症状があった。	○ (可)

- ・ 試合前3日以降に有症状者と練習をしていた選手の出場は不可と判断する。
- ・ 発熱の基準は、37.0度以上とする。ただし、平熱が37.0度前後の場合は、平熱+0.5度までは参加を認める。平熱は直前2週間の平均値とする。
- ・ 試合前に濃厚接触者が所属チーム内で出た場合、チームは練習を中止して、全日本柔道連盟に連絡をすること。チームは2週間の練習中止が原則となる。濃厚接触者の感染が確定した場合は感染確定日から2週間の練習休止が確定する。この期間に試合日が含まれる場合、試合に参加することはできない。濃厚接触者の感染が否定された時点で、濃厚接触者以外のチーム構成員は中止前の段階から集団練習を再開できる。しかし、濃厚接触者は濃厚接触者と確定された日から2週間はチームのいかなる練習や大会にも参加できない。試合前2週間のうちに濃厚接触者と練習をした者は、主催者が入場プロトコールにより参加の是非を判断する。

## 11. 審判員への対応について

### (1) マスクの着用について

審判中もマスクを着用する。試合場に上がらない審判委員もマスクを着用する。

### (2) 試合中の位置取り

審判同士や選手とは、十分な距離 (少なくとも2m以上の距離) をあけるが、技の判定の判断には近接での判断が必要な場合もあるので、臨機応変に対応する。

### (3) 試合中の監督・選手のコントロール

監督や選手が試合場で大声を出して、応援や指示をする場合には、厳しくコントロールする。

### (4) 試合場の清掃、消毒

試合場が出血や汚物などで汚れた場合は、審判員の指示で係員が必要に応じて清掃・消毒を行う。

## 12. その他

上記に記載のない事項については、次の指針等の最新版に沿って進める。

- ・ 「新型コロナウイルス感染症対策と柔道練習・試合再開の指針」 (全日本柔道連盟発出)
- ・ 「新型コロナウイルス感染症対策について」 (県新型コロナウイルス感染症対策本部発出)